

保健・福祉

介護の相談はできるようになったか
平成27年8月からサービス開始した

あんしんホットダイヤル

松葉雅浩議員(公明党) 市は、医師や看護師等が24時間かつ年中無休でフリーダイヤルにより医療情報を提供する「あんしんホットダイヤル」を開設している。これに関して、平成27年2月定例会の一般質問において、介護の相談もできるようにすべきと提言したが、その後の経過はどうか。 答 本サービスに係る契約内容の見直しを行い、27年8月から、介護の相談全般の情報提供ができるようにしたところである。今後は、あんしんホットダイヤルの電話番号や介護の相談ができる旨等を記載した小型の案内カードを作成し、公共施設や医療機関等で配布する予定である。

市川市斎場



保健・福祉

事業の実施状況と課題 どう考える

生活困窮者自立支援制度

173人が相談 今後は任意でも実施

清水みな子議員(日本共産党) 生活保護に至る前の段階での生活困窮者に対する自立支援策の強化を図るため、平成25年に生活困窮者自立支援法が成立し、27年4月から全国の自治体で同法に基づき事業がスタートした。これまでの事業の実施状況と課題をどう考えているか。 答 27年8月末までの新規相談人数は173人で、生活困窮に関する相談等に対し、必要に応じ支援プランを作成している。対象者の個々の状況に合わせたきめ細かな支援が必要であることが課題として見えてきたため、これまでの自立相談支援事業の他、就労準備支援事業等の任意事業の実施に向け準備を進めている。

高齢者の住宅支援

宮本均議員(公明党) 本市でも地域包括ケアシステムは推進されているが、支援の更なる必要性について、市の認識はどうか。 「住まい」の確保が大前提となる。そこで、低所得の高齢者に対する住宅入居支援に係る課題、また、生活支援の更なる必要性について、市の認識はどうか。 答 民間賃貸住宅あっせん

低所得者の住まい確保と生活支援は
情報提供の方法検討 環境整備を推進

女性の低栄養

佐藤義一議員(民主連合・社民) 若い女性の低栄養が指摘されている。先進国の中でも日本は痩せすぎの女性の比率が非常に高く、特に妊娠したときの胎児への影響を医学界は強く警告している。市は中学生等の学校現場の実態をどのように把握しているのか。 答 児童生徒の村田式標準

女子中学生の瘦身の実態は
全国平均に比べ良好な状態

体重による瘦身度判定では、本市の12〜14歳女子の「痩せている子」は全国6.2%に対し4.1%、「高度の痩せすぎ」は全国1%に対し0.4%と、全国平均に比べて良好な状態である。また各学校では保健体育科や家庭科の授業の指導に加え、ヘルシースクール推進事業でも取り組みを進めている。

「100条委員会」委員長から議会に中間報告

政務活動費等により切手を大量に購入した議員の調査に関する特別委員会

9月定例会では、10月2日の本会議において、「政務活動費等により切手を大量に購入した議員の調査に関する特別委員会」(100条委員会)の松井努委員長から、委員会におけるこれまでの審査経過について中間報告がなされました。

委員長からは、平成23〜25年度に小泉文人議員及び鈴木啓一前議員が政務活動費等で行ったとされるアンケート調査について、これまで4回にわたり委員会を開催し、関係者に記録の提出を求めたほか、小泉議員、鈴木前議員、松永鉄兵議員及び青山ひろかず議員の4名に対し証人として出頭を求め、湯浅止子議員及びかつまた竜大議員の2名を参考人として招致すること等を決定したことや、引き続き事実関係が明らかとなるよう調査に全力で取り組む旨の報告がなされました。

保健・福祉

市川市斎場

荒木詩郎議員(創生市川) 市川市の斎場では、平成27年7月から、火葬終了後における火葬炉前での遺族立会いによるお骨の確認作業を行っている。遺族の中には、火葬炉からお骨を出すところを確認したいという希望もあられるのではないかと、運用を変更した理由を問う。

お骨の確認作業をやめた理由は
利用者の意見を踏まえて変更した

答 利用者から、火葬終了までの待ち時間が長いのご意見を多く寄せられたことから、待ち時間の短縮について検討した結果、火葬炉の前でお骨を確認する作業を取りやめることとした。利用者からは、以前より待ち時間が短くなって良かったとの意見が寄せられているところである。

認知症対策

稲葉健二議員(創生市川) 高齢化の進展に伴い、本市でも認知症の有病者数や軽度認知障害者数の増加が見込まれる中、認知症の早期発見・早期対応は、病状の進行を抑える上で大変効果的であり、非常に重要である。そこで、本市において、市民と協働して認知症把握や支援ができるように検討していきたい。

早期の発見・対応が重要 普及啓発を
市民と協働する方法を検討したい

答 認知症になっても身近な地域で暮らし続けることができる社会の実現に向けて、本市でも、認知症初期集中支援チームを設置した。今後は、患者本人に身近な立場にある市民等と協働して、認知症に関する情報の把握や支援ができるように検討していきたい。

議会運営委員会の
委員構成

議会運営委員会の委員構成に変更がありました。委員会の構成は次のとおりです。

- 委員長 田中幸太郎
- 副委員長 中村よしお
- 委員 高坂 進 西牟田 勲 ほそだ伸一 石原みさ子 増田 好秀 桜井 雅人 荒木 詩郎 松葉 雅浩 金子 正

(平成27年9月4日現在)

懲罰動議を可決

不穏当発言に陳謝求める

9月定例会では、9名の議員から、9月10日の一般質問の際に不穏当な発言があった等を理由に、鈴木雅斗議員に対する懲罰動議が11日に提出され、委員会条例に基づき15人の委員で構成する懲罰特別委員会が設置されました。

委員会での審査の結果、鈴木議員に陳謝の懲罰を科すべきことが28日の本会議に報告され、議会は多数をもってこれを可決しました。採決後、鈴木議員が陳謝文を朗読しました。